

朗読をして楽しむ、聞いて楽しむ

平成12年の発足以来、劇研「空」は朗読にも力を入れてきました。その年のしまね文芸フェスタ開会式での県内詩人の作品を朗読、翌年の大森公演では県内、県外の人たちに案内して民話の語りや自作詩の朗読をしていただきました。14年には「詩の朗読と語り劇」と題して県内の詩人の朗読や「スーホーの白い馬」を朗読劇用に脚色してリーディングをしました。16年には大田市立図書館で「朗読を楽しむ」会を開きました。一般の人や大学生や高校生も参加して朗読していただきました。16年には中四国詩人大会で出雲風土記や柿本人麿の長歌、石見銀山の歴史と民話から創作した「鶴」を群読しました。今回は実質的には第4回目の朗読発表会になります。

気軽に参加してください 飛び入り大歓迎

今回は特に気楽に参加して朗読を楽しむことを目標にしています。朗読は詩でも随筆でも短編小説や童話、民話など何でもOKです。感銘を受けた文章や新聞や英文の朗読もOKです、参加を希望される場合は事前に連絡をしていただければ時間配分ができるので助かります。当日の飛び入りも歓迎します。朗読が好きな人が周囲におられたら勧めてください。

学校や幼稚園や介護施設などで朗読や読み聞かせをしている人が増えています。朗読の仕方を勉強したいという声もよく聞きますが、何よりも人の朗読を聞いてそこから自然に学ぶのがベストだと思います。結果的にお互いの「学びの場」になれば最高です。もし好評だったら、今後も続けていきたいと考えています。資料代、会場費などを含めて500円を参加者は負担してください。

第1部 自由参加

自由参加です。朗読の前に1分くらいでスピーチをして下さい。朗読の持ち時間は1人5～6分です。劇研「空」のメンバーは茨木のり子の短詞を2、3人が朗読します。石見方言の自作詩の朗読、成道流 朝山支部の皆さんの構成吟詠「百人の棺」も予定しています。楽しみにしてください。

第2部 茨木のり子さんをしのんで

最初に「茨木のり子の詩について」15分くらい洲浜が解説します。茨木さんは2月17日自宅で亡くなっていました。79歳でした。意志により葬儀や偲ぶ会はなく、生前に用意されていた手紙が死後に知人へ送られてきました。「ヒューマンな社会意識と鋭い現実批判で戦後女性の生き様を歌った詩人」などと新聞は報道しました。詩人の新川和江さんは「現代詩の長子、逝く」と書いています。

「りゅうりえんれんの物語」は拉致されて北海道の炭坑で働かされていた中国人の劉連仁が脱走し北海道の山中で13年間生きていて発見されたことを茨木さんが長編詩にしたものです。詩集「鎮魂歌」から「花の名」と2編を「空」の田中、山本、松本、山根、中村が群読します。単なる朗読ではなく一種の演劇的演出を加味して群読します。



茨木のり子追悼特集を組んだ「現代詩手帖」4月号 思潮社 1300円 現代詩文庫「茨木のり子詩集」も緊急重版された